

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

源氏物語

雄風のあふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
定文くくそのあふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに

あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに  
あふくししすも夜をみそるあはらるるひに

以為藤原自筆之本授合ノ即也入為字者也

明三傳八己未年三月廿三日

道賢

或本云

土辰百首丁酉秋を明靜又進遠語以下墨法筆  
清瑛朱定家郷定家注中十五首諸瑛子合以下

源一首不奇

美家 為家

若所 為家

春二十首

おのつ流に春

閑路早春

山崎の春はさかすかに  
山崎の春はさかすかに

たのぶ一実のあり川をよそとぬれ春のまじりて  
うはらばよき春のうらみのとちかぬをいぢりて  
なすしそあるまゝに花のうらみの実のまじりて

酒と朝露

酒のうらみの朝露のうらみの  
酒のうらみの朝露のうらみの

あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの  
あさあけの朝露のうらみの

春の樹

春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの

春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの  
春の樹のうらみの

春の中

春の中  
春の中

春の中  
春の中  
春の中  
春の中  
春の中  
春の中  
春の中  
春の中  
春の中  
春の中

春の行

春の行  
春の行

春の行  
春の行  
春の行  
春の行  
春の行  
春の行  
春の行  
春の行  
春の行  
春の行

田舎若菜

いそいそと春のめづらしき  
いそいそと春のめづらしき

いそいそと春のめづらしき  
いそいそと春のめづらしき  
いそいそと春のめづらしき  
いそいそと春のめづらしき

野外残雪

野外残雪のめづらしき  
野外残雪のめづらしき

野外残雪のめづらしき  
野外残雪のめづらしき  
野外残雪のめづらしき  
野外残雪のめづらしき

山崎梅花

山崎梅花のめづらしき  
山崎梅花のめづらしき

山崎梅花のめづらしき  
山崎梅花のめづらしき  
山崎梅花のめづらしき  
山崎梅花のめづらしき

梅葉花風

梅葉花風のめづらしき  
梅葉花風のめづらしき

梅葉花風のめづらしき  
梅葉花風のめづらしき  
梅葉花風のめづらしき  
梅葉花風のめづらしき

水邊古柳

水邊古柳のめづらしき  
水邊古柳のめづらしき

水邊古柳のめづらしき  
水邊古柳のめづらしき  
水邊古柳のめづらしき  
水邊古柳のめづらしき

雨甲侍

雨甲侍のめづらしき  
雨甲侍のめづらしき

雨甲侍のめづらしき  
雨甲侍のめづらしき  
雨甲侍のめづらしき  
雨甲侍のめづらしき

あまのこもたるとちかきよきまゝあはれをさくらに枝にたぐし  
まはるはほろろはくしあはれをのちらひとていそいそいそいそ

野死る人

きつりぬらんむらさきとあはれ  
こころのなほくもあやうき

まはるはほろろはくしあはれをのちらひとていそいそいそいそ  
はたのまはるこころのなほくもあやうき

遠野の花

あはれいそいそいそいそ  
あはれいそいそいそいそ

あはれいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ  
あはれいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

野を流る花

あはれいそいそいそいそ  
あはれいそいそいそいそ

あはれいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ  
あはれいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

故郷の花

あはれいそいそいそいそ  
あはれいそいそいそいそ

あはれいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ  
あはれいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

河に春月

あはれいそいそいそいそ  
あはれいそいそいそいそ

あはれいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ  
あはれいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

深衣序

其のより一服の月として

其のわらひをたきもなるまじきためしめりしとて  
かゝるはあつていふとていふとていふとていふとて  
あつたまじきなるまじきなるまじきなるまじきなる  
藤元随風

梅色 秋を

梅色の秋をいふとていふとていふとていふとて  
梅色の秋をいふとていふとていふとていふとて  
梅色の秋をいふとていふとていふとていふとて  
梅色の秋をいふとていふとていふとていふとて  
梅色の秋をいふとていふとていふとていふとて

秋中言春

秋中の言春をいふとていふとていふとていふとて  
秋中の言春をいふとていふとていふとていふとて  
秋中の言春をいふとていふとていふとていふとて  
秋中の言春をいふとていふとていふとていふとて  
秋中の言春をいふとていふとていふとていふとて

夏十首

夕花隠語

夕花の隠語をいふとていふとていふとていふとて  
夕花の隠語をいふとていふとていふとていふとて  
夕花の隠語をいふとていふとていふとていふとて  
夕花の隠語をいふとていふとていふとていふとて  
夕花の隠語をいふとていふとていふとていふとて

神楽部

神楽部の歌をいふとていふとていふとていふとて





野亭夕秋

夜半の秋の夜半の秋の夜半の秋

野亭夕秋  
秋の夜半の秋の夜半の秋の夜半の秋  
秋の夜半の秋の夜半の秋の夜半の秋  
秋の夜半の秋の夜半の秋の夜半の秋

夕暮の曉花

夕暮の曉花  
夕暮の曉花  
夕暮の曉花

夕暮の曉花  
夕暮の曉花  
夕暮の曉花  
夕暮の曉花  
夕暮の曉花

一葉の如鳥

一葉の如鳥  
一葉の如鳥  
一葉の如鳥

一葉の如鳥  
一葉の如鳥  
一葉の如鳥  
一葉の如鳥  
一葉の如鳥

海上待月

海上待月  
海上待月  
海上待月

海上待月  
海上待月  
海上待月  
海上待月  
海上待月

松間夜月

松間夜月  
松間夜月  
松間夜月

松間夜月  
松間夜月  
松間夜月  
松間夜月  
松間夜月

野亭夕秋

野亭夕秋  
野亭夕秋  
野亭夕秋

野亭夕秋  
野亭夕秋  
野亭夕秋  
野亭夕秋  
野亭夕秋











三つは... 新花... せき... ちり... せ

... せき... ちり... せ

免脚燈虫

わね... ちり... せ

... せき... ちり... せ

る年書

... せき... ちり... せ

... せき... ちり... せ

節

... せき... ちり... せ

... せき... ちり... せ

英経年意

... せき... ちり... せ

... せき... ちり... せ

報志傳

... せき... ちり... せ

... せき... ちり... せ

及事増意よきことなりしむれんやせんぬきしこと

いふにいふ物なくしものさへもいふれ新身にいふ  
こととていふものもいふれ草やを海にいふは  
ほげらわたりしものいふれ海はしんたのさるもいふ

波野増意

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

途中増意

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

浪門増意

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

忘後下意

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

後意録

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

いふにいふものいふれ草やを海にいふは

今にたゞきとていふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
ゆゑにたゞきとていふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
満を踏ま あつちとていふにきこへしとていふにきこへし

わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
家といふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
いふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし

借人の心

あつちとていふにきこへしとていふにきこへし

わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
いふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし

絶不の心

あつちとていふにきこへしとていふにきこへし

わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし

わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし

雜二十首

五定人の後

あつちとていふにきこへしとていふにきこへし

わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし  
わは流あいにいふにはいふにきこへしとていふにきこへしとていふにきこへし



秋のよき川にのく白秋はれあもくうまをくりのりやうに  
唐平ももなれてきこし秋のやいよとえ河のせきをたつ時  
ふたひとるそくひささちあはれなれをきそくひささち

春種野遊

春種野遊 春種野遊 春種野遊

春種野遊 春種野遊 春種野遊 春種野遊 春種野遊

園路約客

園路約客 園路約客 園路約客

園路約客 園路約客 園路約客 園路約客 園路約客

山家吟風

山家吟風 山家吟風 山家吟風

山家吟風 山家吟風 山家吟風 山家吟風 山家吟風

山家吟風

山家吟風 山家吟風 山家吟風

山家吟風 山家吟風 山家吟風 山家吟風 山家吟風

海路眺望

海路眺望 海路眺望 海路眺望

海路眺望 海路眺望 海路眺望 海路眺望 海路眺望

月四雞中友

おろくは月夜よなくそのひさ  
臨のそめりなるしんとして

おろくは月夜よなくそのひさ  
臨のそめりなるしんとして  
臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨宿秋雨

おろくは月夜よなくそのひさ  
臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

海を眺む

おろくは月夜よなくそのひさ  
臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

おろくは月夜

おろくは月夜よなくそのひさ  
臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

おろくは月夜

おろくは月夜よなくそのひさ  
臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

おろくは月夜

おろくは月夜よなくそのひさ  
臨のそめりなるしんとして

臨のそめりなるしんとして

